

# 広島県経済の動向

令和8年6月15日

商工労働局

## 目 次

1	経済動向の概要	1
	（1）国内経済の動向	
	（2）広島県経済の動向	
2	県内主要製造業の生産動向	3
	（1）鉄鋼	
	（2）自動車	
	（3）造船	
	（4）一般機械	
	（5）電気機械	
3	中小企業の動向	5
	（1）概況	
	（2）景況感・景況感の変化	
	（3）前月から変化のあった主な業種	
4	企業倒産状況	7
	（1）概況	
	（2）業種別	
	（3）原因別	
	（4）今後の見通し	
5	最近の雇用失業情勢	8
	（1）県内の有効求人・求職の動向	
	（2）県内の新規求人・求職の動向	
	（3）県内の人員整理の状況	
	（4）完全失業率の状況（全国・県内）	

（注）「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

# 1 経済動向の概要

## (1) 国内経済の動向

### ア 概要

指 標	令和8年		
	3月	4月	5月
基調判断	景気は、穏やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある		
輸 出	おおむね横ばいとなっている		
生 産	横ばいとなっている		
設備投資	持ち直している		
雇用情勢	改善の動きがみられる		
個人消費	持ち直しの動きがみられる ただし、消費者マインドがこのところ弱い動きとなっていることに注意が必要である		
住宅建設	弱含んでいる		
消費者物価	このところ緩やかに上昇している	緩やかに上昇している	
企業収益	米国の通商政策の影響が残るものの、改善の動きがみられる		改善の動きがみられるが、中東情勢の影響を注視する必要がある

### イ 先行き

雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和8年5月26日公表）】

## (2) 広島県経済の動向

### ア 概要

指 標	令和8年		
	3月	4月	5月
基調判断	緩やかな回復基調にある		
輸 出	緩やかに持ち直している		
生 産	緩やかに持ち直している		
設備投資	増加している		
雇用・所得	緩やかに改善している		
個人消費	緩やかな回復基調にある		
住宅投資	下げ止まっている		
消費者物価 (除く生鮮食品、広島市)	1%台後半のプラスとなっている	1%台半ばのプラスとなっている	

### イ 県内の経済の先行き

今後の中東情勢の展開や原油価格の動向などが、企業の生産や賃金・価格設定行動、個人消費の動向など、県内の金融経済情勢に与える影響を注視していく必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」(令和8年6月5日公表)】

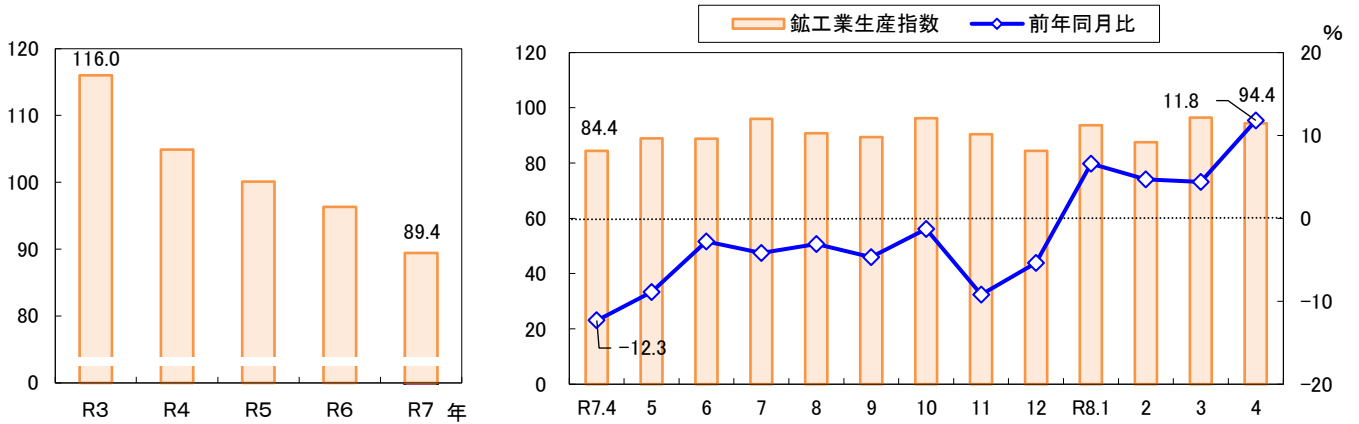
## 2 県内主要製造業の生産動向

### (1) 鉄鋼（令和8年4月）

4月の鉱工業生産指数（鉄鋼業、原指数、速報値、令和2年=100）は94.4で、前年同月比で11.8%増加となっている。

鉱工業生産指数(鉄鋼業)(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

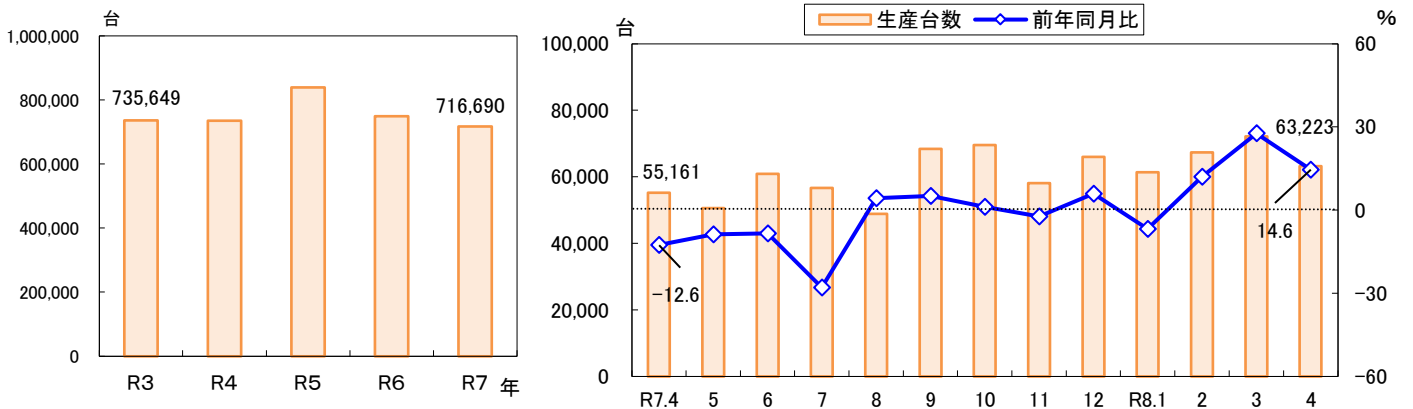


### (2) 自動車（令和8年4月）

4月の国内生産台数は63,223台で、前年同月比で14.6%増加となっている。

自動車生産台数(年別、月別・前年同月比)

【マツダ(株)】

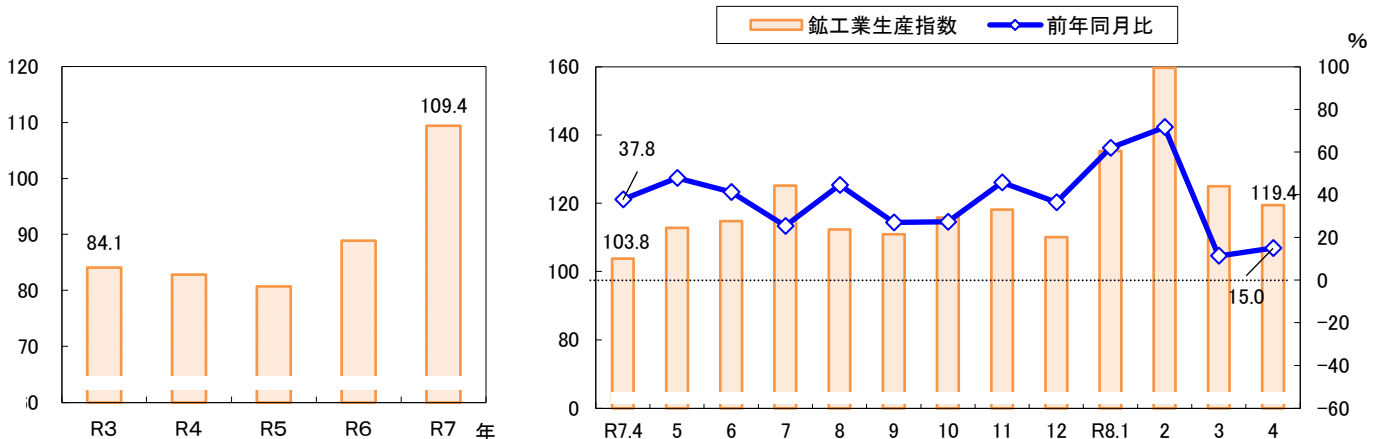


### (3) 造船（令和8年4月）

4月の鉱工業生産指数（造船部門、原指数、速報値、令和2年=100）は119.4で、前年同月比で15.0%増加となっている。

鉱工業生産指数(造船部門)(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

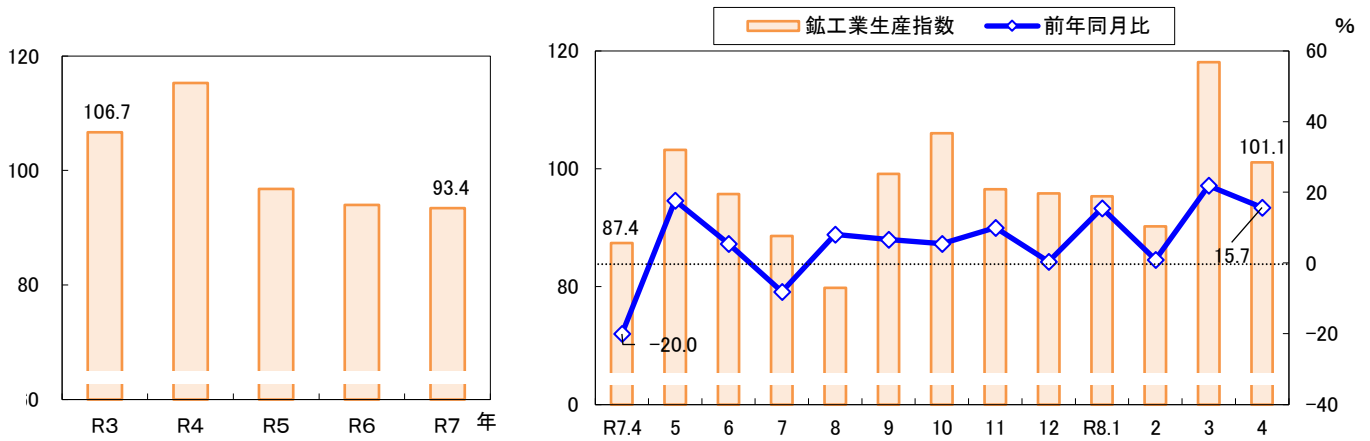


(4) 一般機械 (令和8年4月)

4月の鉱工業生産指数(一般機械工業(総合)、原指数、速報値、令和2年=100)は101.1で、前年同月比で15.7%増加となっている。

鉱工業生産指数(一般機械工業(総合))(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

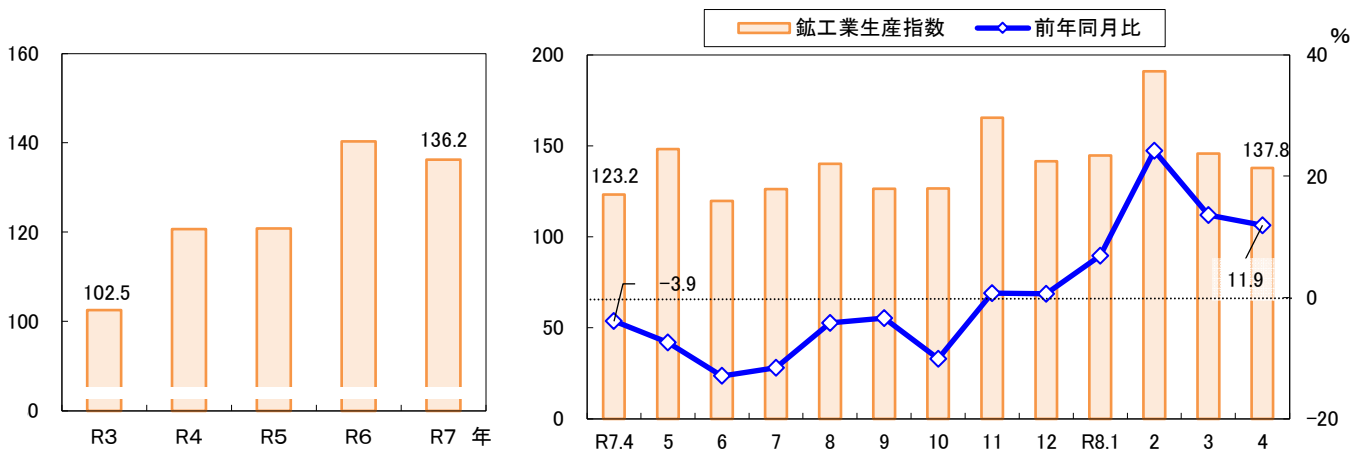


(5) 電気機械 (令和8年4月)

4月の鉱工業生産指数(電気機械工業(総合)、原指数、速報値、令和2年=100)は137.8で、前年同月比で11.9%増加となっている。

鉱工業生産指数(電気機械工業(総合))(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】



### 3 中小企業の動向（令和8年4月）

【広島県中小企業団体中央会（令和8年5月18日時点）】

#### (1) 概況

一部の業種で景気の回復が見られるものの、県内の多くの中小企業は、原材料費やエネルギー価格の高騰、人件費の上昇に加え、国際情勢の緊迫化に伴う資材の調達難により収益が圧迫されるなど、厳しい様子が窺える。先行きについても、これらに伴う影響や深刻な人手不足の長期化、物価高に伴う消費低迷への懸念から、回復の見通しは依然として不透明である。

自動車関連業種では、4月の国内自動車販売台数は前年同月比+9.1%と4か月ぶりに増加した一方、マツダ車は前年同月比▲3.6%と3か月連続の減少となった。

また、木材業界では、4月の全国新設住宅着工戸数は62,569戸で前年同月比+1.4%となったものの、県内の4月の着工戸数は1,107戸で、前年同月比▲38.8%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「4月の生産・販売状況について」に基づく

※木材業界に関する記載は、国土交通省が公表する「建築着工統計調査報告」及び広島県がホームページに掲載する「新設住宅着工戸数」の4月分のデータに基づく

#### (2) 景況感・景況感の変化

業種	3月の景況感	4月の景況感
食料品	普通	やや悪い
繊維・衣服	普通	やや悪い
木材	普通	やや悪い
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	やや好況	普通
化学	やや悪い	普通
プラスチック製品	普通	やや悪い
土石製品	やや悪い	やや悪い
鉄鋼（铸件）	やや悪い	やや悪い
金属製品	やや悪い	普通

業種	3月の景況感	4月の景況感
一般機械器具	やや悪い	普通
電気機械器具	やや悪い	普通
自動車部品	普通	やや悪い
造船	普通	普通
建設	やや悪い	やや悪い
トラック輸送	やや悪い	やや好況
卸売	普通	やや悪い
小売	やや悪い	やや悪い
情報サービス	普通	普通

（単位：業種）

景況感	3月	4月	増減数
好況	0	0	0
やや好況	1	1	0
普通	8	7	▲1
やや悪い	10	11	1
悪い	0	0	0

(3) 前月（3月）から変化のあった主な業種

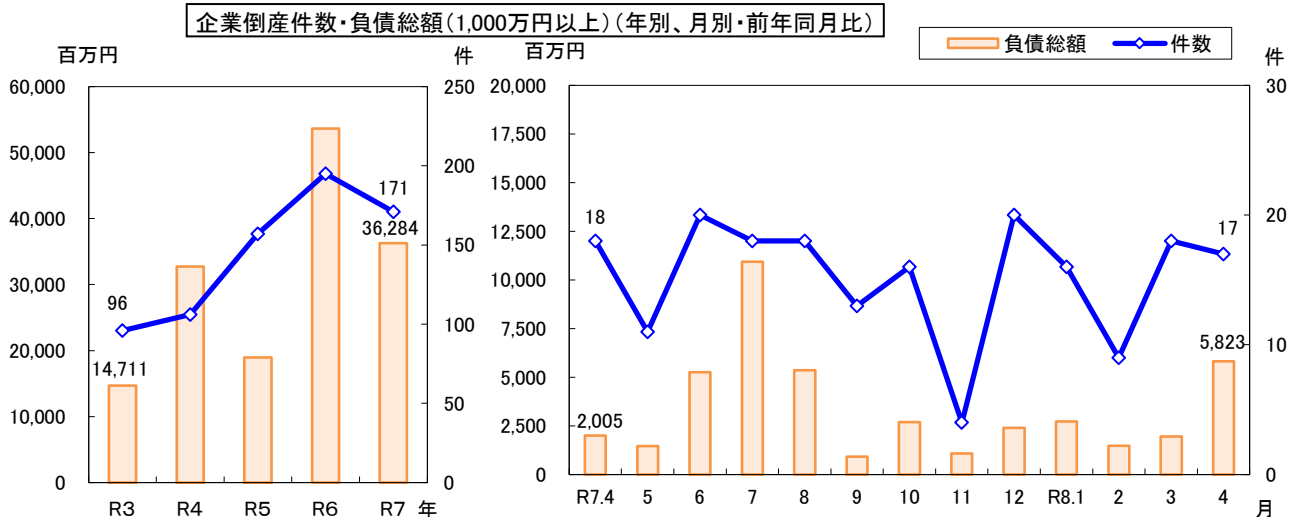
業種	3月の景況感	4月の景況感	変化の理由・状況
化学	やや悪い	普通	<p>米国・イスラエルとイランの軍事的対立が続いており、終結の見通しが立たない状況にある。この影響でホルムズ海峡等を通じた石油をはじめとする様々な物資の流通が滞り、価格が高騰している。また、円安も進行しており、全ての企業がサプライチェーンの再構築を迫られている。原価高騰をいかに価格転嫁するかが今後の大きな経営課題となっている。</p> <p>今後の見通しは現時点では全く不透明であり、各企業は不安感の中、投資をはじめ全ての支出を抑制する経営に徹せざるを得ない状況にある。</p> <p>【中国ゴム工業協同組合】</p>
プラスチック製品	普通	やや悪い	<p>ナフサ由来の石油化学基礎製品を原料とするプラスチック製品の主要材料に関する供給不安が日々高まっており、自工場の生産停止や顧客の生産調整も懸念される。また、電気・ガス等のエネルギー費の高騰も見込まれており、今後の経営見通しは不透明な状況にある。</p> <p>【広島県プラスチック工業会】</p>

## 4 企業倒産状況（令和8年4月）

### (1) 概況

負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が17件、総額58億2,300万円であった。  
前月比では、件数が1件減、負債総額は38億6,600万円増加した。  
前年同月比では、件数が1件減少、負債総額が38億1,800万円増加した。  
大型倒産（負債総額10億円以上）は2件であった。

区 分	令和8年2月	令和8年3月	令和8年4月
件 数 (前年同月比)	9件 (30.8%減)	18件 (50.0%増)	17件 (5.5%減)
負債総額 (前年同月比)	1,474百万円 (16.4%減)	1,957百万円 (75.5%増)	5,823百万円 (190.4%増)



### (2) 業種別

件数は、サービス業5件、製造業、卸・小売が各4件、建設業2件、運輸・通信業、不動産業が各1件となった。  
負債総額は、製造業、サービス業、建設業、卸・小売業・飲食業、不動産業、運輸・通信業の順となった。

### (3) 原因別

原因別では、販売不振が15件、他社倒産余波が1件、信用性低下が1件であった。

### (4) 今後の見通し

令和8年4月度の倒産件数は17件、負債総額は58億2,300万円で、件数は前年同月比、前月比ともに2ヶ月ぶりの減少、負債総額は前年同月比、前月比ともに2ヶ月連続の増加となった。  
業歴別倒産状況では30年以上が7件、20年以上が4件、10年以上が1件となり、業歴10年以上の倒産が全体の70.5%を占め、前月3月度では業歴10年以上の倒産が全体の77.7%と比較的業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が15件で最多となり、既往のシワ寄せは0件、売掛金等回収難は0件で、これらを合計した不況型倒産は15件で全体の88.2%を占めた。  
そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は4月度17件中4件発生し、これまでの累計は326件（負債総額1,000万円未満、弁護士一任・準備中を除く）となった。ただ、代表者の急逝を要因とした倒産が1件発生しており、後継者不在や高齢化が企業経営を行き詰らせる要因となった。  
広島県内に限られたことではないが、全国で見ても令和8年2月の米国とイスラエルのイラン攻撃以降、中東情勢の緊迫感が続き、国内経済にも影響が出始めており、原油と石油化学製品の原料となるナフサなどの安定供給が懸念されている。

すでに一部樹脂製品の値上げが明らかになり、中小企業の一部でも在庫に影響が出始めている。一部金融機関では「取引先のプラスチック関連業者からの供給制限で、在庫が大幅に減少し業況が厳しくなっている」と語り、中東情勢の悪化が实体经济に波及しつつある。包材関係でも「中国への生産外注分が、イラン攻撃の直後に2～3割値上げの打診があった。さらに、現在の受注分だけで新規追加発注は受け付けられていない」（包材商社）という。

こうした影響が広島経済に与える影響は大きく、企業は更なる対応に迫られる可能性がある。商品やサービスに競争力がある企業であれば売価へ転嫁が可能であるが、そうした企業に於いても仕入先などサプライチェーンマネジメントが必須であり、より強固な管理体制が求められる。

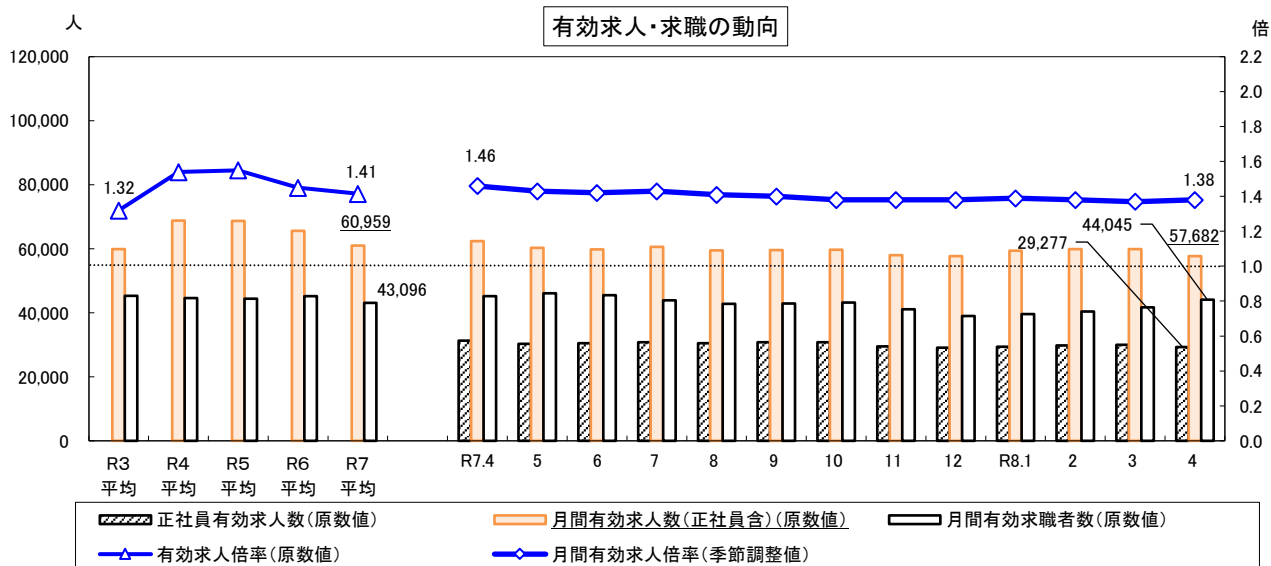
生き残る企業経営に於いて、利益を確保するための基盤が必要であり更なる競争激化へ対応できる企業以外は市場から退場せざるを得ない状況が続くものと見られる。

## 5 最近の雇用失業情勢（令和8年4月）

### （1）県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和8年2月	令和8年3月	令和8年4月
有効求人倍率〈季節調整値〉 （前月比）	1.38倍 （▲0.01ポイント）	1.37倍 （▲0.01ポイント）	1.38倍 （+0.01ポイント）
正社員有効求人倍率 （前年同月比）	1.26倍 （▲0.05ポイント）	1.23倍 （▲0.04ポイント）	1.16倍 （▲0.07ポイント）

【広島労働局】



（注1）正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。

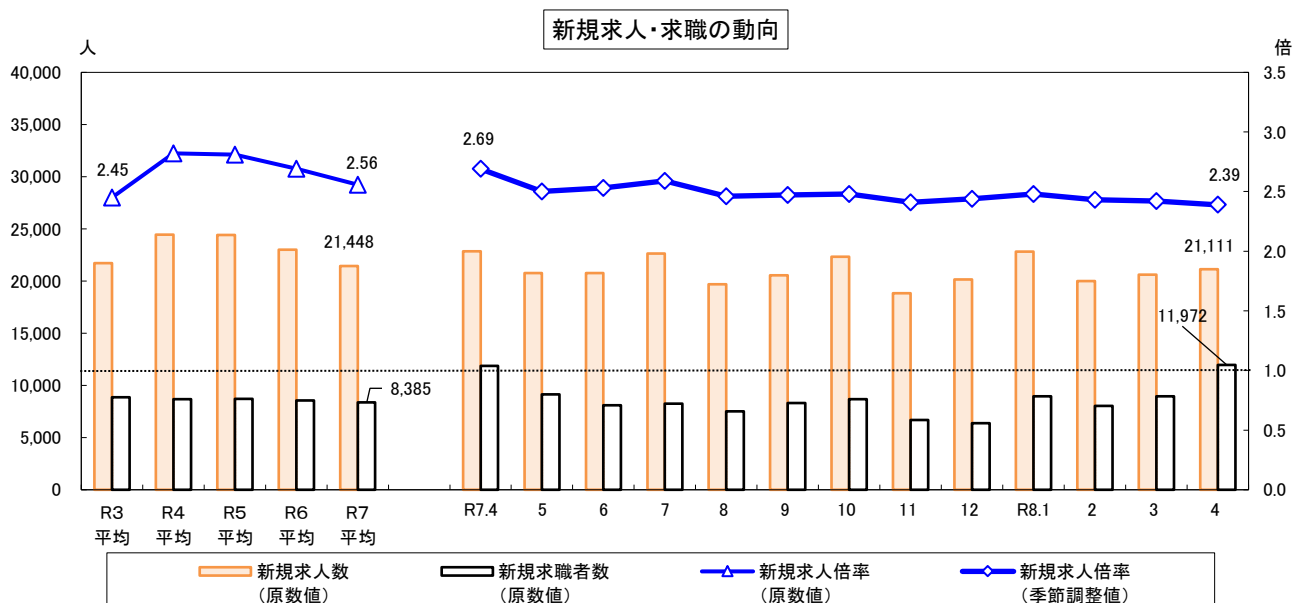
（注2）正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。

（注3）季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

### （2）県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和8年2月	令和8年3月	令和8年4月
新規求人倍率〈季節調整値〉 （前月比）	2.43倍 （▲0.05ポイント）	2.42倍 （▲0.01ポイント）	2.39倍 （▲0.03ポイント）

【広島労働局】

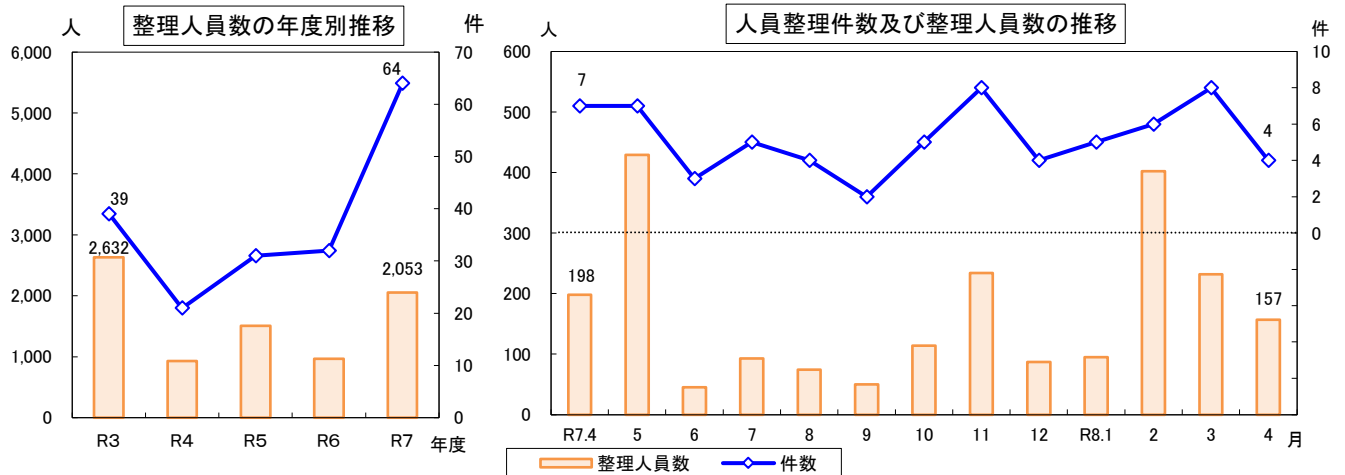


（注）季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

(3) 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区 分	令和8年2月	令和8年3月	令和8年4月
件数 (前年同月比)	6件 (+3件)	8件 (+5件)	4件 (▲3件)
整理人員 (前年同月比)	402人 (+257人)	232人 (+151人)	157人 (▲41人)

【広島労働局】



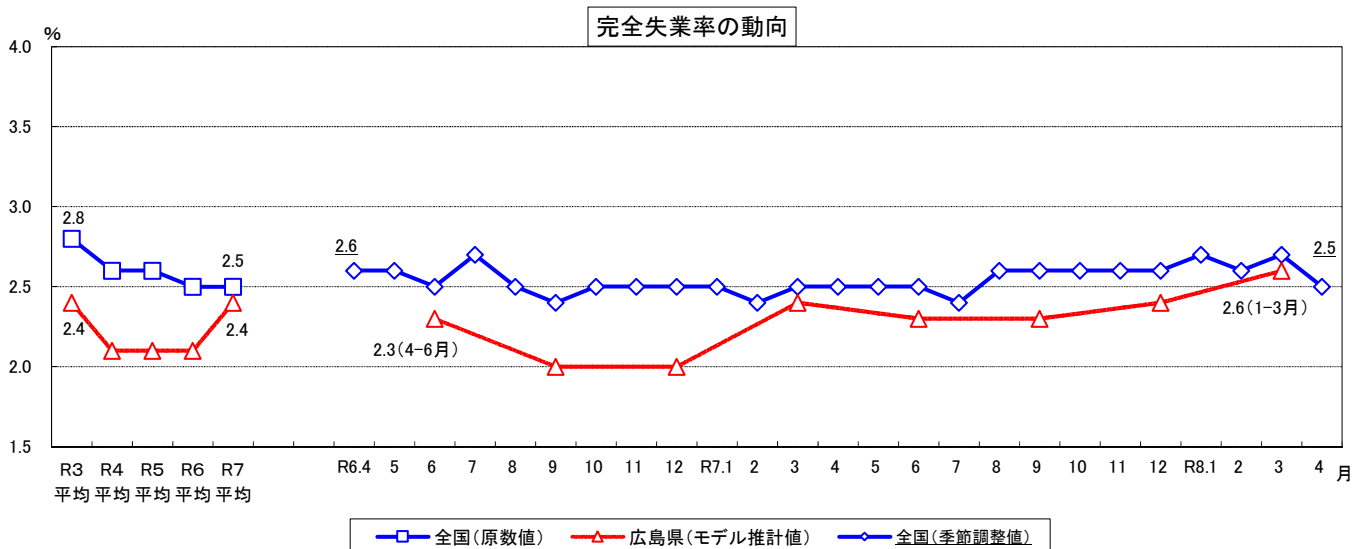
(4) 完全失業率の状況（全国・県内）

区 分	令和8年2月	令和8年3月	令和8年4月
全国完全失業者数 (前年同月比)	180万人 (+15万人)	194万人 (+14万人)	193万人 (+5万人)
全国完全失業率〈季節調整値〉 (前月比)	2.6% (▲0.1ポイント)	2.7% (+0.1ポイント)	2.5% (▲0.2ポイント)

区 分	令和7年		令和8年
	7～9月平均	10～12月平均	1～3月平均
広島県完全失業率 (モデル推計値) (前年同期比)	2.4% (+0.4ポイント)	2.4% (+0.4ポイント)	2.6% (+0.2ポイント)

【総務省統計局】



- ※ 全国完全失業率の季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。
- ※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1～3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去に遡って一部改定している。